

# 会報

冬  
No.152

2011.1

社団法人北海道電業協会



目 次

年頭ごあいさつ	北海道開発局 営繕部長 林 理	1
平成23年の新春を迎えて	(社)北海道電業協会会長 吉 川 照 一	2
法人職務執行者就任ご挨拶	サンワコムシスエンジニアリング(株)北海道支店 支店長 宮 井 直 樹	3
	弘和電気(株) 取締役社長 吉 田 豊	3
新春特集		
今こそ、絆と連携と誇りを！		
～人生は「おかげさまで、ありがとう」～		4～8
ラジオパーソナリティー 牧 やすまさ氏と語る		
平成22年度経営者懇談会セミナー		9
平成22年度経営者懇談会		10
平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会		11
安全衛生パトロール実施報告		12～13
－シリーズ－ 1 / 212だより		
・熱き水と大地の町 鹿部町		
	鹿部町長 川 村 茂	14～15
・農業王国、ゲートボール発祥の地 芽室町		
	芽室町長 宮 西 義 憲	16～17
平成22年度「公共建築の日」イベント		18
分離発注訪問記		19
厚生委員会行事報告 歌唱部会		20
	ボウリング部会	21～22
	ゴルフ部会	23
業界だより、理事会・三役会・委員会報告		24～26
事務局日誌		27
編集後記		



## 年頭ごあいさつ

北海道開発局

営繕部長

はやし  
林

ただし  
理

新春にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

社団法人北海道電業協会の皆様には、国土交通省北海道開発局の開発行政の推進にあたり、常日頃よりご理解とご協力を賜っておりますことを、心から御礼申し上げます。

北海道開発局営繕部では、道内に所在する官庁施設（国の建築物）に対し、新営工事や改修・修繕工事などの施設整備とともに、既存施設の保全に関する技術的指導を行っております。

国民の共有財産である官庁施設について良質な施設とサービスを効率的に提供することが営繕部の使命であり、膨大なストックとなっている国有財産の一層の有効利用を図ることが目標であります。施設整備と保全指導の両業務はそのようなファシリティマネジメントの一環でもあります。一方、公共建築の先導的役割を果たすことも重要であり、公共建築工事標準仕様書などの技術基準の普及や先端技術の導入による新技術の開発・普及促進も図っております。

施設整備においては、行政需要の変化や老朽化、また、耐震化などの社会的要請へ対応した整備を行って参りました。本年も、老朽化した施設が増加する中、安全・安心を確保する視点に立ち、緊急性の高いものから重点的・効率的な整備を進めていく所存です。

工事発注におきましては、一般競争入札方式において、より適切な参加資格要件の設定に努め、一層の競争性の確保を図ります。総合評価落札方式による品質確保、施工体制確認型によるダンピ

ング対策についても引き続き行い、その実効性を確保して参ります。また、地域への配慮として、総合評価において地域精通度の評価を行って参りましたが、地域貢献度の評価も加えて参ります。

既存施設の保全に関しては、各施設に対する保全実態調査により状況を把握し、施設が良好な状態に保たれるよう、各省庁の施設管理者の方々に技術的な指導・助言を行っております。ストックの有効活用を図るため、施設の機能維持だけでなく建築設備の効率的な運用なども含め、一層重点的に取り組んでいく所存です。

このような状況のもとで、建築設備に関わる企業や技術者の方々が果たすべき役割は非常に重要であります。特に地球温暖化対策や安全性の確保などに配慮しつつ建築物を良好に機能させることが重要であり、運用管理段階も含め積雪寒冷地の特性を活かした技術力が求められています。皆様が研鑽を積み、持てる技術力を十分に発揮していただくことを期待いたしております。

最後になりますが、北海道開発局においては「コンプライアンス強化計画」に従った業務運営に努力してきており、皆様には、引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

諸情勢が厳しい中ではありますが、本年が、北海道の将来にとって希望の年となりますようご祈念するとともに、皆様のさらなるご発展とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 平成23年の新春を迎えて

社団法人 北海道電業協会

会長 吉川 照一

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、何かと厳しい時代環境下ではありますが、新たな希望を胸にご家族お揃いで新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、日本経済は、サブプライム問題に端を発した世界同時不況の影響が強く残っているものの、中国をはじめとする新興国の景気回復やアメリカの自動車市場の回復などを契機として、緩やかに持ち直してまいりました。この動きに合わせ、設備投資は低水準ながらも増加に転じはじめ、個人消費もエコ関連の各種経済対策の効果などから自動車や家電製品を中心に緩やかに改善を続けてまいりました。しかしながら雇用情勢は失業率が5%台の高水準で推移するなど、依然として厳しい状態が続いており、最近の円高の進行により、この先道内の輸出関連製造業のみならず輸出拡大に取り組む一次産業に対しても影響が表れてくるものと思われ、景気の先行きに対する見通しに厳しさが増しています。

このような経済状況の中、我々電気設備工事業を取り巻く経営環境は、公共事業の削減や民間設備投資の鈍化等を背景に、受注高の減少に加え競争激化により収益率が大幅に悪化するなど、深刻な事態に陥っているところ です。

申し上げるまでもなく、電気設備は主要な社会基盤として国民生活や産業活動を様々な面で支え

ており、近年の高度情報化の進展や利便性・快適性の向上といった顧客ニーズの多様化、さらには低炭素社会の実現に向けた取り組みとともに、電気設備工事の専門的技術も今後ますます高度化していくものと考えます。

当協会としては、このような状況に対応するため、「工事の品質と透明性を確保し、顧客満足度の高いサービスを提供する分離発注の推進」、「優秀な人材の確保と将来に繋がる人材の育成」、「適正な価格・工期での受注確保と健全で公正な競争の展開」、「高度な技術と品質で低炭素社会の実現に積極的に貢献」を活動目標として、一致協力して時代に適した事業展開を図るとともに、さらなる技術・技能の向上と経営基盤の強化に努めていくことが重要と考えております。

また、懸案となっている公益法人改革に伴う新法人への移行については、今年から申請に向けた諸準備を行う必要がありますので、会員の皆様のご意向を確認のうえ具体的に進めたいと考えております。

厳しい状況下ではありますが、日頃培ってきた会員相互の信頼の下、北海道のライフラインの一翼を担う誇りと責任を自覚し、将来を見据え知恵を出し合って諸課題に挑戦しましょう。

年頭にあたり、会員各社の益々のご繁栄と皆様方のご健勝を心からご祈念申し上げまして、ご挨拶といたします。

## 法人職務執行者就任ご挨拶



サンワコムシスエンジニアリング(株)  
北海道支店長

### 宮井 直 樹

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと

お慶び申し上げます。

この度、前支店長 川出 健の後任として北海道支店長に就任いたしました宮井直樹でございます。平素より、当協会並びに会員の皆様には大変お世話になり、心から厚く御礼申し上げます。若輩者ではありますが、会員の皆様のご指導を頂きながら、当協会及び業界の発展に微力ながら最善を尽くす所存でありますので、前任者同様宜しくお願い致します。

当社は昭和22年9月に電気と通信工事の総合会社として三和電気興業(株)を創立し、昭和43年7月大榮通信工業(株)と合併、三和大榮電気興業(株)と商

号変更し、平成8年4月には(株)三和エレクトリックに商号変更を行っております。平成15年9月には、日本コムシス株式会社及び東日本システム建設株式会社との3社共同の株式移転による純粋持株会社『コムシスホールディングス株式会社』設立、その後の平成17年4月コムシスホールディングス傘下の事業再編により、日本コムシス(株)のキャリア系事業と旧(株)三和エレクトリックの事業を統合し、商号をサンワコムシスエンジニアリング(株)に変更して、新たなスタートを切り現在に至っております。キャリア系事業、メーカー・ベンダー関連事業、ICT事業及び通信・電気等コンストラクション事業を展開しております。昨今、我々を取り巻く道内の環境は大変厳しい状況ではありますが、夢をもって協会の発展に努力してまいり所存でありますので、今後とも宜しくお願い致します。

最後になりますが、当協会の益々のご発展と会員皆様のご繁栄とご健勝をご祈念申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。



弘和電気(株)  
取締役社長

### 吉 田 豊

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄こととお喜び申し上げます。

私は、今年の11月1日付けで前取締役社長中村清の後任として就任しました吉田豊でございます。平素は当協会及び会員の皆様には大変お世話になり、心より厚く御礼申し上げます。会員皆様のご指導を頂きながら、協会及び業界の発展に微力ながら最善を尽くす所存でございます。前任者同様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

この機会をお借りしまして当社の紹介をさせていただきます。当社は昭和39年4月に電気工事会社として創立して現在に至っております。平成14年に

は、ISO9001-2000を取得し、このツールを生かして厳しい中を頑張っております。

私個人のことになりますが、昭和44年に琴似工業高等学校卒業後入社し現場代理人として、30年あまり現業部門を管理し以後、開発営業として特に民間営業に携わっております。昨年は長年続きました政権が交代となり、政治が物から人へと方針を転換され、北の大地北海道の建設業をとりまく環境は更なる厳しい時期ですが、北海道新幹線札幌延伸という明るい話もあります。このような厳しい時の就任ではありますが、道産子魂を生かし北海道の景気回復に希望を持ちながら業務に邁進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、協会の益々のご発展並びに会員皆様のご繁栄とご健勝をご祈念申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。

# 新 春 特 集

## 今こそ、絆と連携と誇りを！ ～人生は「おかげさまで、ありがとう」～

ラジオパーソナリティー 牧 やすまさ氏と語る



### プロフィール

- 1953年6月14日生まれ、札幌出身
- ☆札幌市立中島中学校一年の時、校内弁論大会に優勝
- ☆日本大学在学中、芸術学部落語研究会の大看板、  
七代目何亭（なんてい）骨太（こった）襲名
- ☆昭和53年～STVラジオのパーソナリティーをつとめる
- ☆平成元年 全国身体障害者スポーツ大会後夜祭実行委員長
- ☆平成3年 (社)日本青年会議所“環境を考える地球市民会議”実行委員長
- ☆平成5年 (社)札幌青年会議所第42代理事長

### 現在

- ☆STVラジオ『牧やすまさのスーパースクランブル』メインパーソナリティー
- ☆北海道バウンドテニス協会理事長
- ☆韓国厨房 銀座園店主

●日 時 平成22年11月17日18時30分～19時50分

●場 所 (社)北海道電業協会

●出席者 STVラジオパーソナリティー 牧やすまさ氏

電業協会 中野副会長 橋本広報委員長 嶋津広報副委員長 鷹觜広報副委員長



**(橋本委員長)**

インタビューを円滑に進めるために、私が進行役を務めさせていただきます。まず、中野副会長よりご挨拶をお願いいたします。

**(中野副会長)**



収録を終えた足で駆けつけていただきました牧さんには、お忙しい中お越しいただきましてありがとうございます。現在、政治も経済も閉塞感が漂う中、われわれ経営者は、将来展望や人材の育成に

ついて日々頭を悩ませております。そこで、数々の人気番組のパーソナリティー、またコメンテーターとして日々ご活躍され、また札幌青年会議所の第42代理事長というご経験をお持ちの牧さんに、北海道を元気にするヒントや、アドバイスをいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

**(橋本委員長)**



我々協会の会報誌には、北海道を元気にするため、各地域との連携を図りたいという思いから、「1/212」というシリーズで、道内の市町村情報を掲載しています。牧さんの番組でも北海道の市町村に情報を発信していますが、電気工事業界が連帯感を持っていくヒントのためにも、全道ネットの番組としてどのような観点から番組作りをされているのかお伺いいたします。

**(牧氏)**



新年のおめでたいこの会報誌と同じ役目で、絆を築く、人間としての連携をとるのが基本的にラジオの使命だと思っています。というのも、ラジオはマスコミと捉えていません。マスコミはテレビや新

聞。ラジオ瓦版、学級新聞で、皆さんもやったことあるでしょうが、自分で作って、発表したり表現したり。だからラジオはマスコミに対してミニコミだと思っています。私が、生きている人間としての言葉で、リスナーの方の心に「お邪魔します」と入って行って、その方に共感をいただき、今度はその方から生きた言葉を返して頂いて、それを受けていくという、人間と人間のつながりです。デジタルではなくアナログですね。ささやかだけど大切な人生を送られている皆さんの仲介役になって、こんなふうに、平凡だけど素敵な日々を一緒に生きていきませんか？と伝えるのがラジオの仕事です。余談ですが、マスコミには嘘があります。テレビのフレームの中にあるものはすべてやらせですから。テレビをご覧になるときは画の中にあるものが真実ではなく、その外側にあるものが真実かもしれないと思ってください。ラジオに嘘はありません。少なくとも私の番組では、ありのままの生活をありのまま伝えることが、ラジオだと自信を持って言えます（笑）

（鷹觜副委員長）



牧さんは、北海道という土地柄を意識して、どのように番組を作っているのでしょうか。

（牧氏）

自分も道産子、電波の届く方たちも道産子ですから。私の番組では特に、北海道の一次産業の方



原稿を前に真剣な眼差し

たちに元気をつけてもらいたいという意識があります。なぜなら、北海道の基盤は、やはり一次産業だと思うからです。北海道は、カロリーベースでいうところの食料自給率が200%を越えているのだから、100%を北海道の人達で食べて「残りの100%欲しかったら売ってあげるから買いにおいで」というくらいの強さが北海道にあっても良いと思います。北海道ブランドは、本州圏でも本当に力を持っていますから。私は、皆さんの北海道魂を奮い立たせる何かを、発信していこうと心がけています。一次産業の皆さんが笑顔になれば、北海道は元気になっていきますよ。

（嶋津副委員長）

一次産業の代表格である農業関係者から「TPP反対」が報道されていますね。あれを入れたら農家つぶれるって…。

（牧氏）

TPPで一番困るのは農業団体です。TPPを導入しても勝負できる農家さんはいっぱいいます。勝負したい人もいっぱいいる。農協を通さないと、村八分になる。札幌有名レストランで認められて直取りをすると、農協は面倒見ないからねってなる。BSE問題のときも、酪農家さんは離農するとなればこの村から出て行けですから。ごく一部の例だけど。お百姓さんがぼくのラジオで話してくれるのはそういうことです。政治がずっとだらしないうことやっているからダメなのです。農家のかたの声は「自分でやりたい」「頑張っ勝負したい」でも、そうやるとお金も貸してくれない。結局、団体を守るためにやっていることでその実態が良く見えない。とにかく、創意工夫して効率よく元気な企業・団体にすることが、どの業界も同じと僕は思います。

（鷹觜副委員長）

国では他業種への兼業を支援する施策を推奨していますが、うまくいくものでしょうか。

（牧氏）

確かに、流行っていますね。企業が農業の仕事を補う、でもなかなか甘い話には無理があります。システムは緩和されたけれど、農地をどうやって手に入れるのかなど、国は何もやりやすくしていないのです。個別保証だって減反やるならあげるよって話。農家さんはありがたいけれど、実際、2000年～2010年の十年間に百万人離農してい

ます。それに対して、毎年3兆円使われているのに、農家さんは楽になっていない。

**(橋本委員長)**

ご自分の番組を作られるなかで、多くの方にインタビューをされていますね。牧さんの、人の話を聞く姿勢と、人から学ぶ姿勢がまっすぐでいらっしゃるところは、どのように培われたのですか。

**(牧氏)**

それは、商人をやっていた親からでしょうね。子どもの頃、店を手伝っていると、色々なお客さんがいるわけです。お金を払っているから、なんでもやってくれと言う方もいます。気持ちがよくてスマートな方もいらっしゃる。それを見ていたから、自分は後者になりたいと思いました。私の座右の銘は「おかげさまで、ありがとう」です。人生にはそれしかないと思っています。

又、人の話を聞くテクニックは、まず自分の自尊心とプライドをいったん出して、横に置いておくことです。それから話すと、相手の事が全部入ってきますよ。人の話を聞けないのは、この二つが邪魔をしていることが原因です。聞き終わったら、横に置いた二つを自分に戻します。そこで取捨選択をして、やっぱりいい話だったな、と思えるわけです。これがあると、立場や年齢が違って、誰のお話であっても素直に聞けますよ。

**(嶋津副委員長)**



もう30年以上、パーソナリティーをつとめてこられて、たくさんのお話を聞かれています中で、特に感動されたお話はありますか。

**(牧氏)**

最近では、今年の10月に新冠町にオープンした児童福祉施設「こたにがわ学園」のお話ですね。15~20歳の、いじめや虐待で家に帰れない子たちを全国から募っている施設です。新冠の旧若園小学校が廃校になり、ネットオークションに出されたのを、千葉県に住む二人の教師がわざわざ学校を辞めて、その退職金で購入されたのです。児童福祉に情熱を持った方たちで、一人は千葉で自宅を開放して福祉施設を運営しておられるので、も

う一人の方が家族を千葉に置いて、ワゴン車で新冠まで開設準備にやってきました。その方はご近所に、ここを児童福祉施設にします、と触れ回りつつ、毎日約8,000坪の学校の敷地の草むしりをたった一人でされていたそうです。そのうち、隣の農家のおじいさんが「見ていられねえ、先生どきなさい、うちのトラクターで雑草刈ってやる」と言いました。すると今度は別のおばあさんが「じゃ、私は給食をやってあげる」、その次は近所のお兄さんが「俺は剪定ができる」、さらに街の電気屋さんが「うちが配線を換える」と、次々名乗りを上げました。そして立派な施設が出来上がり、今や100人も町の助っ人が支えてくれているそうです。私は、その千葉から来られた方の熱意に感動しました。熱意に対して何かしてあげようと周りが動くって、すてきなことですね。

**(橋本委員長)**

とてもいいお話ですね。一生懸命やっている人は、誰かが見ているのでしょうか。

**(牧氏)**

その通りです。そして、一生懸命やっている方の姿が、同じように額に汗している方に伝わらないといけません。「あなた、汗かいたでしょう、だから今笑顔になれるんだよ」ということを、北海道中に伝えたいです。

今はマニュアル社会になってきて、紙がものと言うような時代ですが、北海道もそろそろ、マニュアルを超えたところを目指していくべきです。均一の質とサービスを提供するためには良くても、それだけではだめですね。観光も同じで、例えば函館のホテルも、洞爺湖のホテルも、山の中のホテルも、三大ガニ食べ放題ですよ。それ、嘘でしょうって思いますよ(笑)。海は海の、山は山の幸があるのですから。

**(橋本委員長)**

番組の原稿作りや、仕込みのための勉強するのは大変でしょう。いつも、心がけている事はありますか。

**(牧氏)**

毎日、新聞を一般紙から業界紙まで13紙読みます。12時にスタジオに入ってから、斜め読みですけどね。興味があるものはスクラップしてスタッフの方にまとめてもらいます。読売と朝日読み比

べたらこの国はどっちの国かと思えますよ。

あとは、諸先輩や仲間と時々飲んで情報をいただきます。自分が話をするときには常に、例のテクニックを使っています。だから、すごく聴ける。後輩の話やスタッフの方々からの話も聞けて大変参考になりますよ。

**(中野副会長)**

マニュアルについてですが、今の新入社員たちは教育を始めたときに「この仕事のマニュアルはないのですか?」と聞いて来るのが多くなっています。人材育成については、どうお考えでしょうか。

**(牧氏)**

マニュアルがだめなのです。東京ディズニーランドがなんで人気落ちないのか、100ある徹底したマニュアル管理だけれど、100個目のマニュアルに「これが、お客さまのためになるマニュアルだとあなたが思ったなら、それまでのマニュアルは破って良いです」というのがあります。これがすごいのです。

たとえば、キャラクターにたくさんサインしてもらったサイン帳を落とした子のお父さんに、バイトの男の子が自分のお金と時間を割いて新しいものを作って渡したそうです。バイトの男の子は「お父さんがサイン帳を落とした同じサイン帳を買い、そのキャラクター全員にサインしてもらいました」彼は自分の時間外に自分のお小遣いを使ってサイン帳を買ってサインしてもらった。その後お父さんから手紙が届きました「実は、うちの子供は脳腫瘍だった、あなたから貰ったサイン帳を胸に天国に行きました。最後までまたディズニーランドに行こうねって話していました」ということでした。そういう話が沢山あるのです。

**(中野副会長)**

又、日本の方向性が見えなくなってきましたが、どう思われますか…。

**(牧氏)**

原因は教育にあると思うのです。学校と、なにより両親の教育です。最近はこのが大きく崩れてきていますね。親自体が、躰をおろそかにして権利を主張するのです。そもそも、権利ばかりが叫ばれる社会は、遡れば戦後から今に至るまでの60年で、アメリカに合わせて作られてきました。例を挙げると、憲法三章の「国民の権利及び義務」

の中には「権利」という言葉は15回あるけれど、「義務」は3回しかない。「自由」9回に対して、「責任」4回なのです。そのような状況に私たちは自然に慣れてしまい、権利は主張するけど義務を果たさなくなってきたのです。

本来、日本には日本のやり方がありました。古典『太平記』の35巻目での話で、ある武士が川に10文を落とします。武士はたいまつ屋で50文のたいまつを買って、それを使って10文を拾います。周りは「武士たるものが10文にこだわるとは情けない」と笑いますが、本人は「私の10文が戻ってきて、しかもたいまつ屋が50文儲かった、つまり60文が世のためになったのだ」と言うのです。日本の商売の原点は、これでしょう。一番の誰かが得をするのではなく、社会が回っていく商いです。現代のビジネスは、この話に学ぶところが多いかもしれません。

マニュアルは機械的なものですが、それを使う心を育てていく社会が求められますよね。

**(中野副会長)**

さすがプロでいらっしゃる牧さん、とても楽しく、大変貴重なお話を伺えました。「人と人の絆」「熱意は必ず周りに伝わる」「マニュアルを越える」など、われわれにも学ぶところが多く、参考にさせていただきたいです。今後も、牧さんのますますのご活躍を心より祈念申し上げます。本日は誠にありがとうございました。



広報委員会メンバーと

## 平成22年度経営者懇談会・セミナー



平成22年11月16日(火)午後1時30分からホテルニューオータニ札幌において「平成22年度経営者懇談会・セミナー」を開催し、会員代表者など60名が参加した。

はじめに、吉川会長から最近の当業界を取り巻く経営環境について「2008年のリーマンショック以降、景気の低迷が続いている。公共工事、民間工事とも減少、さらに急激な円高等により今後も厳しい状況が続くと見られる。この状況下で、技術と経営にすぐれた会社を目指し、経営基盤の安定化を図って欲しい」と求めた。さらに「本日のセミナーでは、こうした企業が直面する課題の中で、企業の継続的發展に必要な「経営力強化」への対応として開催したので、本セミナーを通じて「経営基盤の強化」と「市場競争力の確保」のツールとして役立てていただきたい」と挨拶された。

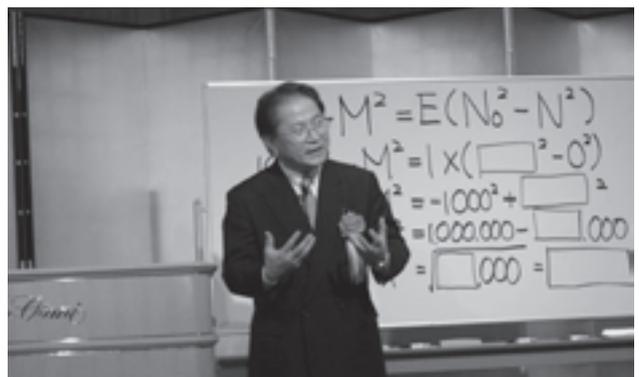
経営セミナーでは、建設経営革新「勝ち方のセオリーとNO1理論」と題して、(株)建設経営サービスの手島伸夫氏を講師に招き講演いただいた。

手島氏は、建設業をめぐる環境変化に触れ「事業仕分けは公共工事削減のために行なっているのではなく、説得力がないから削減されるのであり、それは昔からあったこと。これからは、自分たちで感謝と感動を作り出し地域貢献するべき時代になってきている」と持論を展開。さらに現場の効率を上げる手法として「最も効率の良い作業をしているのは誰かを明確にし、そのレベルまで全員を引き上げることが重要だ」と強調された。

具体的な事例として、ランチェスター法則について解説。事前に用意していた問題から「あなたが経営者ならどうする」との問いかけに耳を傾け、会員自らの考えを解答する方式の講演に真剣に取り組み経営のヒントを学んだ。



吉川会長挨拶



手島講師

## 平成22年度経営者懇談会



平成22年11月16日(火)経営セミナーに引き続き「平成22年度経営者懇談会」を、会員代表者など約50名が参加して開催した。

本懇談会については、当協会を取り巻く諸問題、協会事業に関する意見や提言を頂き、今後の協会事業に反映し、更に会員代表者相互の意見交換の場として開催している。

はじめに、吉川会長から「我々を取り巻く経営環境は極めて厳しくなっている。北海道では、公共工事が大幅に減少しているという大きな問題はあるが、住宅投資が着実に持ち直している。また、設備投資も増加の計画があること。全体としては厳しい状況にあるが、持ち直していることに間違いはない。当協会としてはこのような環境下であるが、品質の確保、価格の透明化により分離発注の一層の推進、適正かつ合理的受注等をモットーに、変革の時代に入っていることを認識して対応する事が重要である。本日の懇談会では、協会の健全な発展と会員皆様方の繁栄に繋がるよう活発な意見交換の場としたい」と挨拶された。

つづいて、小川専務理事の司会で議事進行となった。(議事次第参照のとおり)

### 【平成22年度経営者懇談会次第】

1. 関係官公庁との意見交換会の開催概要について
2. 平成22年度会員大会決議事項等について
3. 新公益法人への移行に向けた取り組みについて
4. 各地区協会からの近況報告
5. 協会事業および関係官公庁に対する要望事項について (フリートーキング)

懇談会終了後は、交流会となり会員相互和やかに親睦を図った。



交流会で乾杯挨拶 中野副会長



各地区協会からの近況報告



閉会挨拶 山口副会長

## 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会



平成22年10月30日(土)～10月31日(日)の2日間、北海道電気会館において開催され、全道から29名が受講した。

この講習会は、国土交通省の提唱による「基幹技能者の確保・育成・活用に関する基本方針」をふまえ、(社)日本電設工業協会が策定した「電気技能労働者育成指針」に基づき、電気工事業界における基幹技能者を認定する講習会で、合格者には平成21年度から経営事項審査のなかの技術力を評価するZ評点に、3点が認められている。

最初に当協会の小川専務理事から「電設業界が、魅力と誇りのもてる産業へと発展するためには「人づくり」であり、優秀な技術者、熟練した技能者の確保と育成が重要な課題である。そこで、現場の技術者を指導・統率する役割を担う登録電気工事基幹技能者の存在が必要となってくる。基幹技能者としての役割、知識を身に付け最終日の試験には全員合格して欲しい」と挨拶された。

認定講習会は、全国一斉に行われ当協会の認定講習試験委員が講師となり、電気工事基幹技能者の役割や基礎知識など幅広い内容を講義した。受講者は資格取得に向け真剣に取り組み、特に講師からの重要ポイントについては、メモを取りながら熱心に耳を傾けていた。

### 【講習内容・講師】

1. 開会挨拶 (社)北海道電業協会専務理事  
小川 孝 樹
2. 電気工事基幹技能者の在り方等  
電気工事における新材料・新工法等  
今野 正 章 氏  
(北海電気工事(株)電設工事部長代理)
3. OJT教育  
澤田 博 氏  
(三共電気工業(株)常務取締役工務部長)
4. 関係法規・施工管理・事務管理・工程管理  
内山 優 氏  
(株)北弘電社技術部 担当部長)
5. 資材管理・安全管理・労務管理  
吉崎 俊明 氏  
(拓北電業(株)取締役営業推進部長)
6. 品質管理・環境管理  
外岡 甫 氏  
(協信電気工業(株)常務取締役)



内山 優 講師



澤田 博 講師



開講挨拶 小川専務



今野 正章 講師



吉崎 俊明 講師



外岡 甫 講師

## 小樽後志電設業協会との合同安全衛生パトロール実施報告



平成22年11月10日(水)小樽後志電設業協会と当協会の技術安全委員による合同安全パトロールを実施した。

今回の現場は北海道教育委員会発注の北海道小樽高等支援学校寄宿舎棟新築弱電設備工事現場で、現場会議室に両協会関係者が集合。はじめに小樽後志電設業協会の岩城会長から「我々電気設備工事業界を取り巻く環境は一段と厳しくなっている状況下で、安全への取り組みは重要な課題である。小さなリスクでも改善に結びつくように各現場で助言して欲しい」と挨拶された。

次に、事務局からスケジュールと各現場の工事内容について概要説明を受けた後「点検前ミーティング」を行い、パトロール現場へ向かった。

小樽高等支援学校は、平成21年度に開校。現在は札幌市手稲区星置の旧道立肢体不自由者訓練セ

ンター跡地の仮校舎で学習している。今までは寄宿舎がないため、平成23年度から小樽市銭函の旧道立小児総合保健センター跡地に新築移転する校舎に併せ寄宿舎も設置することで進められている。

最初に、第一電設(株)の古谷現場代理人から工程や本日の作業内容の説明を受けてから、仮設電気設備の安全性、建築など他工事との安全体制確立状況、作業員の休憩場所や建築業者許可票等の掲示などを点検した。

パトロール終了後、現場会議室において「安全パトロール点検表」のチェック項目の整理を行い全体総評が行われた。

最後に岩城会長から、内容は概ね良好であると評価し「現場内は良く整理整頓、清掃され良好な環境であった。また、作業工区が多数あり管理が大変な中、適切な管理の下行なわれていた。これから厳しい季節を迎えるので、冬季間対策を万全にすると共に、工事本格化に向けて安全意識を高め、無事故・無災害を継続して欲しい」と総評された。

### 【実施メンバー】

#### ○小樽後志電設業協会

会長 岩城 直人 (富士電気商会)  
副会長 加藤 正幸 (加藤電機商会)  
理事 村田 憲恒 (第一電設)  
事務局 小林 正始 (富士電気商会)

#### ○北海道電業協会技術安全委員

副委員長 澤田 博 (三共電気)  
委員 外岡 甫 (協信電気)  
今野 正章 (北海電気工事)  
内山 優 (北弘電社)  
中村 芳宏 (旭日電気)  
事務局 枝並 秀喜 (電業協会)



## 安全衛生パトロール実施報告



平成22年11月17日(水)技術安全委員による安全パトロールを実施した。

今回は、札幌市が発注した札幌駅前通公共地下歩道新設工事現場で、当協会の会議室に集合。

はじめに澤田技術安全副委員長から「我々の業界は厳しい状況が続いているが、安全対策にはあらゆる状況を想定して取り組んで欲しい」と挨拶された。続いて三共電気工業(株)の松岡現場代理人から、工事内容の概要説明を受けた後、「点検前ミーティング」を行いパトロール現場へ向かった。

今回の現場は、札幌駅周辺地区と大通・すすきの地区とを地下歩道でつなげることにより、四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保する事ができる。工事区間は地下鉄南北線札幌駅～大通駅の約460m、復員20m。平成23年3月完成予定で進

められている。11月15日に本受電され当日は照明器具の取り付けと試験調整作業を行っていた。

終了後、松岡現場代理人は「これから厳しい季節になること、さらに設備関係の業者が輻輳してくるなかで、完成の3月まで無事故・無災害で乗り切るように全員で協力して頑張る」と力強く語った。

午後から協会会議室において「安全パトロール点検表」のチェック項目の整理を行い全体総評が行われた。内容は、概ね良好であると評価し、最後に金子副委員長から「現場の中はきちんと整理されており、全体的に良好であった。あとは、来年3月の完成まで安全には万全を期して取り組んで欲しい」と総評された。

### 【実施メンバー】

技術安全副委員長	澤田	博	(三共電気)
技術安全副委員長	金子	康郎	(日本電設)
委員	工藤	保	(東光電気)
〃	今野	正章	(北海電気)
〃	外岡	甫	(協信電気)
〃	吉崎	俊明	(拓北電業)
〃	中村	好宏	(旭日電気)
事務局	枝並	秀喜	(電業協会)





## 熱き水と大地の町 鹿部町

鹿部町長 川村 茂



鹿部町は北海道の南端渡島半島の東部駒ヶ岳山麓の一角に広がり、北海道の表玄関函館空港から車で約60分の距離にあり、漁業を基幹産業とする町です。

北東に太平洋内浦湾を望み、南東は中ノ川を境に函館市（旧南茅部町）に、北西はトドメキ川を境に森町（旧砂原町）に、南西は横津岳山頂を境に七飯町と接しています。

国道278号が海岸沿いに並行しており、函館市（旧南茅部町）方面から進んでくると、正面に雄大な駒ヶ岳、右手に洋々とした太平洋内浦湾を望むことができ、天気の良い日には、対岸の室蘭市や羊蹄山を眺望することができます。

大沼方面からは、道道大沼公園鹿部線を進むと、左手に見える駒ヶ岳の稜線が海と出会う先に町が見え、町に入ると大小3つの漁港があり、潮の香りと海の雄大さを体感できます。



### 見て・学んで・触れる《しかべ間歇泉公園》

鹿部の間歇泉は、大正13年の温泉試掘中に見つかったという記録が残されています。そしてここは平成11年4月「見て・学んで・触れて」楽しめる体験型公園として、鹿部町の新たな顔となりました。

崇高（すうこう）な駒ヶ岳や遙か羊蹄山まで見渡せるすばらしい眺望、疲れを癒す足湯など、鹿部の魅力を一度に楽しむことができます。



## かろやかに熱い《しかべ海と温泉のまつり》

毎年、夏に開催される鹿部町最大のイベント「しかべ海と温泉（いでゆ）のまつり」では町内はもちろん町外からもたくさんの方にお越しいただき毎年大変賑わいます。

お祭りの最後を締めくくるのは道南一を誇る大花火大会です。夜空を彩り、噴火湾を染める色鮮やかな光の戯れにお越しいただいた方から大きな喝采をいただいております。



## ゆったりくつろぐ《鹿部温泉》

町内のいたるところに温泉源があり、その泉質も異なるため、海沿いをそぞろ歩いて温泉の「はしご」を満喫することができます。

寛文6年（1666年）、津軽（現・青森県）から訪れた伊藤源五郎は、温泉で傷を癒す一頭の鹿に遭遇します。そこで鹿島明神信仰者の源五郎はここに温泉場を設置し、やがて鹿部の湯は多くの人々に知られることになりました。

硫酸塩泉・含食塩硫酸塩泉・重曹泉などバラエティーに富んだ泉質で、神経痛やリュウマチ、慢性消化器疾患など幅広い効能があります。



## 豊かで美味しい《鹿部の特産品》

基幹産業が漁業である鹿部町では、タコ、カレイ、ホッケなどの他、昆布漁も盛んで、特に冬場ではタラコの原料であるスケトウダラ漁、ホタテの水揚げで賑わいます。そのため豊富な海産物を生かした水産加工業も盛んであり、「しかべたらこ」をはじめ、全国的にも高い評価を得ている逸品が揃います。



## のんびり楽しむ《スポーツ&リゾート》

気軽に汗をかける、多目的グラウンド（サッカー・野球場）、パークゴルフ場、プール、体育館などの町営スポーツ施設があり、町外からお越しの方にも、気軽にご利用いただけます。その他、町内2か所のゴルフ場、別荘地も人気です。



### ●まちの概要●

- 【人 口】 4,586人（平成22年10月末現在）
- 【世 帯 数】 1,824世帯
- 【まちの木】 ななかまど
- 【まちの花】 つつじ

※ 詳しくは鹿部町ホームページをご覧ください。



## 農業王国、ゲートボール発祥の地 芽室町

芽室町長 宮 西 義 憲



芽室とは、アイヌ語で「MEM・ORO」が転化したもので、意味は「川の源の泉や池から流れて来る川」です。十勝川、芽室川、美生川など潤した肥沃な大地には、小麦、じゃがいも、小豆、スイートコーン、ビートなどの作物が広大な畑で育っています。

本州の観光客たちが芽室を訪れて驚くのは広大な畑作地帯です。カリフォルニアの空を連想させる気候は、日本有数の晴天率を誇り、作物や人々を元気づけています。夏は昼暑く夜は涼しい風土がおいしい作物を育てているのです。年間平均気温6℃。寒暖差は夏は30℃以上。冬には氷点下20℃以下になることもあります。

自然豊かな魅力とおいしい農畜産物食品を味わって「感動めむろ」を体験してください。次世代

に引き継ぎたい芽室の宝物「**芽室遺産**」をご紹介します。

芽室遺産とは、平成13年より選定されている北海道遺産の流れを汲むもので、芽室町の豊かな自然や、町民によって築き上げられてきた文化や産業、生活などの様々な価値の中で、芽室町独自の視点で次世代に引き継ぎたい有形・無形の財産の中から芽室の宝物として町民により選定されたものです。

### 「新嵐山展望台からの風景」

・新嵐山荘前から車でゆくと展望台に駐車場があります。標高340mからの眺望は緑や黄色と鮮やかなパッチワークを描き、十勝平野を一望できる感動スポットです。

### 「芽室公園と柏の木」

・開拓者が芽室に入植後、農地にするため柏を伐採する計画でしたが、当時の地主が反対し、柏の木が多く残されました。1974年に町の天然記念物に指定されました。



### 「花菖蒲園」

・初夏になると芽室公園の「花菖蒲園」は道内最大規模の2.7haの敷地内に610種、25,000株の花菖蒲が清々しくさきます。



### 「松久園の母屋」

・大正時代に建設された民家は貴重な木造建築物です。板張りの床、柱の太いエンジュにいにしえを覚えます。現在、にじます料理などの食事処として使用されています。



### 「10線防風林」

・景観のみにあらず防風林の効果が見直されています。幅65m、長さ9kmにも及ぶ国内最長の巨大防風林。周辺で伐採された中で残った貴重な防風林です。



### 「ゲートボール発祥の地」

・ゲートボールの生みの親は鈴木栄治さん。戦後間もない昭和22年春、芽室町で製パン業を営んでいた鈴木栄治（後に和伸と改名）氏は、戦後の物資不足の中でなんの遊び道具もない子ども達のために「何か健全なスポーツはないものか」と考え続け、札幌憲兵隊で戦後処理の任務にいたとき目にしたクロッカーをヒントに「ゲートボール」が考案されました。

芽室町内には「ゲートボール発祥の碑」、「ゲートボール資料室」屋内ゲートボール場「健康プラザ」があり、毎年9月には「発祥の地杯全国ゲートボール大会」も開催されています。ゲートボールの聖地「芽室町」でゲートボールの歴史に触れてみませんか。



## 平成22年度「公共建築の日」イベント

### 「公共建築の日」フェスティバル2010 in モエレ



このイベントは、北海道開発局が主催し北海道、札幌市、当協会など、自治体や各種団体が後援するもので、生活に密接に関わっている公共建築が果たしている役割などを、子供から大人まで幅広い市民層を対象に、各種イベントを複合的に開催し、公共建築に理解と関心を持ってもらう事を目的として毎年開催されています。

当協会では4名のスタッフが、10月23日(土)に開催された「ものづくり体験コーナー」に参加した。このコーナーは「電線・パイプでできるもの」として、塩ビパイプを使って楽器、エコ電線を使って昆虫やメガネを作ってもらい、持ち帰ってもらう事で、子供たちに建築設備に少しでも興味をもってもらうことを目的に実施しています。



【開催日時】 平成22年10月23日(土)  
～ 10月24日(日)

【場 所】 札幌市東区モエレ沼公園  
ガラスのピラミッド内

#### 【イベント内容】

1. ダンボールシティinモエレ
2. フォトコンテスト展示
3. ポスターコンテスト展示
4. こども絵画展
5. パネル展
6. ものづくり体験・作って見よう  
(電線・パイプでできるもの)

#### 【参加スタッフ】

(株)北弘電社	内川 勝哉
〃	河合 敦子
北海電気工事(株)	吉田 達永
〃	赤平 慎也

#### 【イベントに参加して】

ものづくり体験で、子供たちが目を輝かせて一生懸命に取り組んでいる姿は、気持ちの良いものでした。この体験で公共建築に関心を持ってもらえればと思っています。

(株)北弘電社 内川 勝哉

## 分離発注訪問記

北海道電業協会の事業活動の4本柱の一つとして「分離発注の推進」がありますが、今年度においても昨年同様、当協会・経営委員会（小野寺委員長）の下で、各地区電業協会と協力し合い分担してそれぞれの地区で、自治体への「分離発注の要請・陳情」が行われました。

私は空知総合振興局管内を受け持ち、11月17日（水）～11月19日（金）の3日間をかけ、管内24市町を訪問して参りました。

この陳情活動は毎年実施している関係もあり、行く先々で各自治体の関係者の皆様には、心よく対応していただき本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

初日の夕張市訪問では、地元（夕張市）大晃電気工業（株）の柿崎社長に同行願い、細川建設課長に面談させていただきました。細川課長さまからは、「今後も分離発注を継続します」との心強いお言葉を頂きました。また、当市の財政再建の苦労話や住民サービスのあり方などについて、貴重な話をお聞きし、大変勉強になりました。改めてお礼申し上げます。

空知管内24市町のうち、1町を除き全て原則分離発注を今後も継続する事でありました。又、原

則一括の1町についても改修や更新工事においては、電気単独工事のみでの場合、電気工事で発注されております。（今年度、2件発注済）。

今回の訪問で感じたことですが、どの自治体も「分離発注したいけれど、発注する工事が少なくて」との声が聞かれました。これは全道の自治体全てに共通する状況だと考えられます。

「厳しい地域経済の中で、今後、地域の建設業を守り育てていく為にも、公共事業の確保がいかに重要か（芦別市萩原副市長）」との考えもお聞きしました。

我々の業界にとっても、適正な公共事業量の確保と一日も早い景気の回復が望まれるところであります。

このたびの分離発注の要請、陳情活動を通じて各自治体の生の声をお聞きできたことや、分離発注に対する暖かいご理解を感じることができました。

今後とも、分離発注の陳情をさらに推し進め、かつ各自治体様とのコミュニケーションを深めることが大切であると痛感したところです。

記 末廣屋電機（株） 国兼勝見



夕張市役所にて、細川建設課長（左）と面談する国兼（中央）と柿崎社長（右）

## 厚生委員会行事報告



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には常日頃から歌唱部会の活動に多大なるご理解とご協力を賜っておりますことを心から厚く御礼申し上げます。

月日の経つのも早いものであつと言う間に1年が過ぎてしまいました。

部会は年4回開催しており、今年度は既に第3回まで開催されました。4回目は2月に開催予定です。皆様の参加をお待ちしております。毎回参加していますベテランメンバー、今年初めて参加した新人メンバー等、常時参加者は20名程です。17時からの2時間と限られた時間で、食べ物は軽食程度ですが、おいしい酒は何でもOKです。夏場の歌唱部会の終わる時間帯はまだ外は明るくチョットそのまま帰宅するには早すぎる（赤い顔の人はチョット恥ずかしい）と思います。



歌唱部会のメンバーの中には職業選択を誤ったんじゃないかなと思われる人もおります。歌われる曲も、昔聞いたことのある歌、少し前に流行った歌、笑いを誘う歌、涙を誘う歌、色々です。

まだ歌唱部会に参加されたことが無い方、歌はチョット苦手な方、聞くだけでも良いので是非一度来て見て聞いて歌って体験して下さい。

今後とも、歴史ある部会を継続するため努力して行きますので、ご協力お願い申し上げます。

歌唱部会幹事 佐久間忠信（北明電気工業株）



## ボウリング部会



第1回大会スタート前

### 平成22年度ボウリング部会 活動報告

新年明けましておめでとうございます。

平素は当部会の活動に、ご理解ご協力を頂きありがとうございます。

無事、年間の活動を全て終了いたしましたのでご報告させていただきます。

平成22年度は、6月・8月・10月と例年通りディノスボウルノルベサにおいて年3回の開催で行なわれ、総参加人員は85名でした。これから当協会や会社を担う若手の参加が多く表彰式においても皆様方の力強いエネルギーを感じる次第です。

もともとボウリングは倒すピンを災い等に見立てて、それを沢山倒す事が出来るならば、その災いなどから逃れる事ができるという一種の儀式的様なものでした。現在においては、あまり経験のない人でも参加しやすい手軽な集団レクリエーションゲームとして人気を得ております。

今年度も皆様方多数の参加をお待ちしております。

また、毎回おいしい焼酎を持参してくださる安達電設の関場社長に感謝申し上げ活動報告とさせていただきます。

ボウリング部会幹事 嶋津 博（島津電設株）

### 第3回ボウリング部会報告

10月22日、平成22年度第3回ボウリング部会が行なわれました。

参加人数は30名。今回も大盛況でした！

優勝者は北弘電社の太田さんです。私と同じレーンだったのですが、4連続ストライクの投球は圧巻でした。優勝も納得の腕前です。その後、懇親会も楽しく盛り上がり、無事に今年度最後のボウリング部会を締め括る事が出来ました。

さて、今回はボウリングに関するトリビアを少し書きたいと思います。ボウリング世代の方々には知っていて当然な知識もあるかと思いますが、是非ご一読下さい。

- ・アメリカでボウリングが盛んになっていた頃、ピンは◇に並べる9ピン制だった。しかし賭けボウリングが絶えなかった為、アメリカ政府は「9本のピンを倒すゲームをしてはならない」と言う決まりを作った。その法をかいくぐる為に生まれたのが現在の10ピン制である。

- ・ボールには通常3つ穴が空いているが、5つまで空けて良い。指入れ用とボールのバランス取り用に分けられるが、指用に空けた穴には必ず指を入れて投げなければならない。

- ・ボウリング場の貸し靴は、盗難防止策としてわざとデザインが悪く派手な物を導入している。

- ・拳を握りしめて喜びを表現する動作「ガッツポーズ」の名付け親はボウリング誌「週刊ガッツボール」(1972年の記事より)。良くガッツ石松氏がガッツポーズの原点とされるが、彼が名付けた訳ではなく名称を世間に広めたという意味合いである(ガッツ石松の王座獲得は1974年)。

ボウリングトリビア、いかがだったでしょうか。これからもたまに豆知識として楽しめるネタを書いて行きたいと思います。幹事一同「皆様にボウリングを通じて楽しく交流して欲しい」その一心で頑張っています。これからも楽しいボウリング部会を目指して行きますので、何卒宜しくお願い致します。

ボウリング部会幹事

藤井 大樹 (株でんこう)

#### 平成22年度第三回 北海道電業協会ボウリング大会順位表

平成22年10月22日開催

順位	氏名	1G	2G	10ハンド	トータル	会社名
優	太田 康智	190	168	21	400	北弘電社
準	尾形 武志	135	178	25	363	ドウデン
1	伊藤 寿教	110	120	66	362	三共電気
2	森崎 亨一	142	167	20	349	北盛電設
3	内川 勝哉	154	144	25	348	北弘電社
4	金沢 正樹	116	122	54	346	拓北電業
5	細野 隆平	78	98	85	346	橋本電気
6	岡山 滋	158	123	31	343	協電社
7	十日市 樹	91	170	36	333	北弘電社
8	小林 勇治	119	139	31	320	三共電気
9	二宮 進	147	134	19	319	北海電気
10	高橋 正晴	122	100	47	316	北海電気
(ハイゲーム賞) 190ピン		太田 康智				北弘電社
(ラッキー賞) 22位		向平 義美				北弘電社
(ブービー賞)		大塚 雅史				北盛電設
(ブービーメーカー賞)		澤口 和幸				末廣屋電機
(大波賞)		十日市 樹				北弘電社



第3回優勝者 太田さん

## ゴルフ部会



新年明けましておめでとうございます。平素より会員の皆様には当部会の活動にご理解ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。昨年よりゴルフ部会、幹事の一員として働かせて頂いております。何もわからず先輩方の下で、組合表の作成、当日の受付、表彰式の準備等を行っております。

さて、平成22年度第1回大会は、5月19日札幌国際CC（島松）34名の参加を頂きました。やや肌寒い感じの大会でありました。第2回大会は6月17日札幌南CC（駒丘）31名の開催でした。当日は受付の担当でもあり、朝一番に到着したものの、ゴルフ場の人も見当たらず戸惑いを感じている内に関係者が集合して一安心。6月ではありましたが、初夏を感じる天候の大会でした。第3回大会になると私自身もなれてきたのかりラックス気分で幹事の仕事をさせて頂きました。7月22日

札幌エルムCCで26名の参加を頂きました。身体はやや汗ばむ気温で、日差しの強い大会でした。第4回大会になりますと余裕もできゴルフに対する緊張感も薄れ、私事ですがブービー賞を頂きました。9月15日札幌スコットヒルGCで28名の参加を頂きました。九月とはいえ、残暑厳しく水分補給は欠かせない大会でもありました。

やはり優勝された方々の表情には最高の笑みが毀れ、楽しく幸せな一日であったと思われま

す。“ちなみ私は残念な一日でもありました。”

今年も例年の如く4回の大会が行われます。毎回、楽しい大会を心掛けながら幹事一同頑張っておりますので、多数のご参加をお待ちしております。今後ともゴルフ部会のご支援とご協力をお願いいたします。

ゴルフ部会幹事 橋本佳明（橋本電気工事株）

### 【昨年の優勝者ご紹介】



第1回札幌国際CC  
中野章さん（北弘電社）



第2回札幌南CC  
稲津亘さん（北盛電設）



第3回札幌エルム  
鷹觜克夫さん（ドウデン）



第4回札幌スコットヒル  
矢田彰さん（北弘電社）

## 業界だより

○会員代表者の変更

・弘和電気株  
(新) 取締役社長  
(旧) 〃

平成22年11月1日付  
吉田 豊  
中村 清

## 理事会・委員会報告

### || 理 事 会

◇平成22年10月19日(火) 12:00~13:30

#### 第4回議題

##### 【協議事項】

1. 役員、常設委員会委員の選任対応について
2. 平成22年度経営者懇談会・経営セミナーの開催要領(案)について

以上提案どおり承認された

##### 【報告事項】

1. 北海道開発局営繕部と電気・空衛両協会との意見交換会概要報告
2. 平成22年度会員大会の開催概要について
3. 平成23年度優良施工者国土交通大臣顕彰候補者の推薦について
4. 平成22年度登録電気工事基幹技能者特例講習の開催について
5. 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習の開催について
6. 北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会の開催状況
7. 「公共建築の日」フェスティバル2010inモエレのイベント参加について
8. 会員代表者、法人職務執行者の変更
9. 会員支店事務所の変更について
10. 平成23年電気関係賀詞交歓会について
11. 平成22年10月~11月行事予定について
12. その他意見交換

以上概要を報告(小川専務理事)

◇平成22年12月1日(水) 16:30~17:30

場 所 ホテルニューオータニ札幌

#### 第5回議題

##### 【協議事項】

1. 今後総会までのスケジュールについて
2. 常設委員会委員の選任対応(案)について
3. 平成22年度中間経理報告について
4. 新公益法人への移行に向けた取り組み(案)

以上提案どおり承認された

##### 【報告事項】

1. 本部理事会及び本部政策委員会開催概要について
  2. 平成22年度経営者懇談会・経営セミナーの開催概要について
  3. 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会開催概要について
  4. 平成22年度登録電気工事基幹技能者専門委員会の開催について
  5. 平成23年電気関係賀詞交歓会について
  6. 平成22年度安全パトロールの実施結果について
  7. 北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会の開催について
  8. 会員代表者、法人職務執行者の変更
  9. 平成22年12月~23年1月行事予定
  10. その他意見交換
- 以上概要を報告(小川専務理事)

## || 三 役 会

◇平成22年10月4日(月) 12:00~13:30

### 第7回議題

1. 本部9月理事会開催概要
2. 役員、常設委員会委員の選任対応
3. 平成22年度経営者懇談会・セミナー開催要領(案)
4. 北海道開発局営繕部と電気・空調協議会との意見交換会の開催概要
5. 平成22年度北海道赤レンガ建築賞第2回審査委員会の開催概要
6. 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習開催
7. 電力活用札幌地区協議会「平成22年度施設見学会」
8. 会員代表者、法人職務執行者の変更
9. 平成22年10月~11月予定
10. 意見交換
6. 平成22年度経営者懇談会・経営セミナーの開催概要
7. 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会開催結果
8. 平成22年度登録電気工事基幹技能者専門委員会の開催
9. 平成23年電気関係賀詞交歓会
10. 平成22年度安全パトロールの実施
11. 北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会の開催
12. 会員代表者、法人職務執行者の変更
13. 平成22年11月~12月行事予定
14. その他意見交換

◇平成22年11月8日(月)12:00~13:30

### 第8回議題

1. 平成22年度経営者懇談会・セミナーの運営
2. 新公益法人への移行に向けた取り組み
3. 平成22年度中間経理報告
4. 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会の開催結果
5. 平成22年度安全パトロールの実施
6. 「電設技術」平成22年年賀広告募集
7. 平成22年11月~12月行事予定
8. その他意見交換

◇平成22年12月1日(水)15:30~16:30

場 所 ホテルニューオータニ札幌

### 第9回議題

1. 今後総会までのスケジュール
2. 常設委員会委員の選任対応(案)
3. 平成22年度中間経理報告
4. 新公益法人への移行に向けた取り組み
5. 本部理事会及び本部政策委員会開催概要

## 総務委員会

◇平成22年12月21日(火) 16:00~17:00

### 第3回議題

1. 今後総会までのスケジュール
2. 平成22年度中間経理報告
3. 人材育成助成制度等の説明会
4. 本部政策委員会開催概要
5. 平成22年度経営者懇談会・経営セミナーの開催概要
6. 平成23年電気関係賀詞交歓会
7. 平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会開催結果
8. 平成22年度安全パトロールの実施
9. 「電設技術」へ年賀広告提供のお願い
10. 平成22年度登録電気工事基幹技能者専門委員会の開催
11. 北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会の開催
12. 適正な財産運用の厳守
13. 平成22年度全道組合員名簿への広告掲載のお願い
14. その他意見交換

## 経営委員会

◇平成22年12月14日(火) 16:00~17:00

### 第4回議題 (議長:元永副委員長)

1. 第3回議事録(案)の承認
2. 電設協第334・335回政策委員会の開催概要
3. 平成22年度会員大会決議
4. 平成23年度電気関係賀詞交換会
5. その他意見交換

## 広報委員会

◇平成22年11月17日(水) 15:00~18:00

1. 会報冬号「新春特集」担当メンバーによる打ち合わせ
2. 会報「冬号」への編集日程

3. 会報冬号「新春特集」インタビュー  
ラジオパーソナリティー

牧 泰昌 氏

◇平成22年11月30日(火) 12:00~14:00

1. 会報冬号「新春特集」インタビューの校正作業

◇平成22年12月9日(木) 15:00~17:00

### 第3回議題

1. 会報「春号」編集方針
2. 会報「冬号」校正
3. 新春特集
4. その他意見交換

## 技術安全委員会

◇平成22年12月16日(木) 16:00~17:00

### 第3回議題

1. 実施報告
  - ・平成22年度登録電気工事基幹技能者認定講習会
  - ・平成22年度経営者懇談会開催概要
  - ・工事現場安全パトロール
2. 登録電気工事基幹技能者認定専門委員会の開催概要(岡竹委員長)
3. 技術講習会の開催
4. 会員対象の現場見学会の開催
5. その他意見交換

## 事務局日誌

- 10月4日(月)・第7回三役会議  
14日(木)・平成22年度会員大会(仙台市)  
19日(火)・第4回理事会、常議員会  
21日(木)・第2回総務委員会  
22日(金)・第3回ボウリング大会  
23日(土)・公共建築の日イベント  
(モエレ沼公園)  
28日(木)・第2回技術安全委員会  
30日(土)・登録電気工事基幹技能者認講習会  
~31日(日) (電気会館 502会議室)
- 11月9日(火)・第8回三役会議  
10日(水)・安全パトロール 小樽  
12日(金)・本部政策委員会(東京)  
山口副会長  
16日(火)・経営者懇談会・セミナー  
・懇親会  
(ホテルニューオータニ札幌)  
17日(水)・安全パトロール 札幌市駅前通公共  
地下歩道  
・広報委員会  
新春インタビュー  
18日(木)・本部運営委員会(東京)  
吉川支部長
- 19日(金)・就活セミナー(北海道工業大学)  
澤田技術安全副委員長  
枝並事務局長  
・歌唱部会  
24日(水)・本部理事会(東京)  
吉川支部長他  
30日(火)・広報委員会  
新春インタビュー校正
- 12月1日(水)・第9回三役会議  
・第5回理事会、常議員会  
(ホテルニューオータニ札幌)  
9日(木)・登録基幹技能者認定専門委員会  
(東京)  
岡竹技術安全委員長  
・第3回広報委員会  
10日(金)・本部政策委員会(東京)  
山口副会長  
14日(火)・第3回経営委員会  
16日(木)・第3回技術安全委員会  
17日(金)・本部運営委員会(東京)  
吉川支部長  
21日(火)・第3回総務委員会  
27日(月)・会報冬号、発送・配布  
28日(火)・御用納め

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には新しい年を迎え、新たな希望に満ちている事と思います。

今年の干支は「草木が地面を覆う様子」を意味する「茂（ぼう・しげる）」または「冒（ぼう・おおう）」に由来する「卯」。

また、ウサギが跳躍する姿から飛躍を表すとも言います。日本全体も飛躍する年にしたいものです。

さて、この度は北海道開発局営繕部長 林 理 様には公務多忙の中ご執筆を頂き、真にありがとうございました。

また、「新春特集」では、STVラジオのパーソナリティー牧泰昌様に「今こそ絆と連携と誇りを！」というお話を頂き、大変感動をした次第です。ありがとうございました。今後とも協会に対するご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。最後になりますが、皆様方の更なるご活躍をご祈念いたしまして編集後記とさせていただきます。

広報副委員長 嶋津 博





発行 平成23年1月  
社団法人 北海道電業協会  
札幌市中央区南1条東1丁目3番地  
パークイースト札幌6階  
TEL (011)271-2932  
FAX (011)271-2952  
E-Mail:dodenkyo@estate.ocn.ne.jp